



平成30年5月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	56,690,191 万円	100.0%	99.4% (99.9%)	55,083,591 万円	98.5% (98.6%)
食 料 品	48,414,877 万円	85.4% (85.0%)	100.0% (100.0%)	47,111,354 万円	98.8% (98.6%)
農 産	7,219,628 万円	12.7% (12.6%)	99.0% (98.1%)	7,024,357 万円	97.7% (96.8%)
水 産	4,411,160 万円	7.8% (7.8%)	100.0% (97.6%)	4,293,257 万円	98.7% (96.3%)
畜 産	6,170,759 万円	10.9% (10.7%)	101.8% (102.0%)	5,994,684 万円	100.3% (100.3%)
惣 菜	5,624,727 万円	9.9% (10.0%)	101.1% (101.5%)	5,456,022 万円	99.4% (99.7%)
日配食品	11,037,423 万円	19.5% (19.2%)	99.7% (100.2%)	10,747,320 万円	98.5% (98.8%)
加工食品	13,951,180 万円	24.6% (24.7%)	99.8% (100.1%)	13,595,714 万円	98.7% (98.9%)
生活関連	3,420,017 万円	6.0% (6.2%)	99.3% (99.0%)	3,348,530 万円	98.7% (98.3%)
衣 料 品	1,694,862 万円	3.0% (3.0%)	93.0% (98.2%)	1,660,475 万円	93.3% (98.5%)
そ の 他	3,160,436 万円	5.6% (5.8%)	94.3% (99.8%)	2,963,232 万円	96.1% (98.3%)

② 数 値

全店総売上高	56,690,191 万円	店 舗 数	4,718 店舗
総売場面積	9,352,156.3 m ²	総従業員数	250,652 人

店舗平均月商	12,015.7 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,855.5 円 (100.9%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (6.0 万円)	平均店舗面積	1,982.2 m ²
月間坪売上(前月)	20.0 万円 (19.7 万円)	パート比率(前月)	77.1% (77.1%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 5月の天候について、上旬は全国的に気温が低かったものの、中旬以降は高く、東日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。北日本・東日本・西日本では降水量が多かった。
沖縄・奄美、九州、四国では平年よりも早い梅雨入りとなった
- ・ 生鮮品の相場状況は、野菜では「キャベツ」と「じゃがいも」が月間を通して安値、果実では「りんご」が月間を通して高値であった。水産物では「いわし」や「いか」などの大衆魚が高値、畜産物では国産豚肉の相場が上昇、鶏むね肉が安値であった
- ・ 前年と比べゴールデンウィーク期間中の土・日・祝日の回数が1回少ない曜日廻りであった

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 気温の上昇に伴い、「きゅうり」「トマト」「ミニトマト」などのサラダ野菜が好調であった
- ・ 「じゃがいも」や「たまねぎ」などの土物は、単価の下落を販売点数の増加で補いきれず、売上は不調であった
- ・ 果実は「すいか」「メロン」「キウイフルーツ」や「バナナ」が概ね好調であった一方、「柑橘類」と「りんご」は好不調が分かれた

○ 水産

- ・ 鮮魚では「まぐろ」「真あじ」「さわら」や「生銀鮭」が好調であった
- ・ 旬の「かつお」は好調であったとのコメントが見受けられた一方、アニサキスの影響により販売方法を見直し、不調であったとのコメントも見られ、好不調が分かれる結果であった
- ・ 気温の上昇により、「刺身」や「貝・海藻類」が好調であった

○ 畜産

- ・ 精肉は豚肉と鶏肉、「ローストビーフ」などの生食が好調であった
- ・ 牛肉は国産牛、輸入牛ともに好不調が分かれた。用途別では「焼肉・バーベキュー用」が好調であった
- ・ ハム、ソーセージなどの加工肉が不調であったとのコメントが見受けられた

○ 惣菜

- ・ 前年アニサキス報道の影響により売上が落ちた「寿司」が、本年は裏年に当たり好調であった
- ・ 気温の上昇に伴い、涼味関連の商品や、「天ぷら」「揚げ物」「中華惣菜」などの油調品が好調であった

○ 日配・加工食品

- ・ 「納豆」と「酢」、「飲用酢」がテレビ番組で紹介された放映効果により好調であった
- ・ 「チーズ」を中心とした酪農品が好調であった。要因として、今春からの一部値上げが挙げられる
- ・ 前年ポテトチップス品薄の影響により売上が落ちた「スナック菓子」が、本年は裏年に当たり好調であった
- ・ 前年、酒税法改正前の駆け込み需要があった「ビール」が不調であった
- ・ ゴールデンウィーク期間中に気温が低かったため、「飲料」や「アイス」の売上に影響を与えた

○ 「ゴールデンウィーク」のマーケットについて

- ・ ゴールデンウィーク期間中のメニュー提案は、「焼肉・バーベキュー」「寿司」の取り組みが多く、動向としては概ね好調であった
- ・ こどもの日のマーケットは縮小傾向にあるものの、「柏餅」や「粽（ちまき）」などの和菓子は概ね前年並みかやや好調であった

○ 「母の日」のマーケットについて

- ・ 母の日当日は雨に見舞われた地域が多く、売上が苦戦した
- ・ 母の日のメニュー提案として「ステーキ」「ローストビーフ」「寿司」「スイーツ」の取り組みが多く見られた
- ・ フラワーギフトは予約販売、当日販売ともに前年割れとのコメントが多かった

以 上